

# 漁業者ら地元安堵

## 小川原湖「安全宣言」あす漁再開

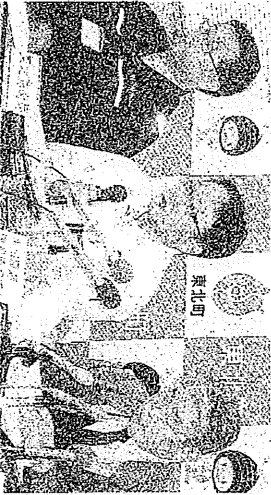


# 「今までと同じ値付へが不安も

米軍三沢基地所属のF16戦闘機が燃料タンクを東北防衛局、国土交通省高橋千鶴子らに投棄した。これにより、小川原湖に投棄された燃料タンクが湖底に沈み、湖の水質が汚染された。地元漁業者は、これまで通り魚を獲り、魚を売りたいという思いで、湖の水質が汚染されたとしても、これまでと同じ値付を希望している。しかし、地元自治体や関係機関は、湖の水質が汚染されたため、魚の安全性が確保できず、これまでと同じ値付を希望することは難しいと見ている。地元漁業者は、湖の水質が汚染されたとしても、これまでと同じ値付を希望している。しかし、地元自治体や関係機関は、湖の水質が汚染されたため、魚の安全性が確保できず、これまでと同じ値付を希望することは難しいと見ている。

# 小川原湖 水質問題なし

## 米軍機タンク投棄 国が安全宣言



米軍三沢基地所属のF16戦闘機が燃料タンクを東北防衛局、国土交通省高橋千鶴子らに投棄した。これにより、小川原湖に投棄された燃料タンクが湖底に沈み、湖の水質が汚染された。地元漁業者は、これまで通り魚を獲り、魚を売りたいという思いで、湖の水質が汚染されたとしても、これまでと同じ値付を希望している。しかし、地元自治体や関係機関は、湖の水質が汚染されたため、魚の安全性が確保できず、これまでと同じ値付を希望することは難しいと見ている。地元漁業者は、湖の水質が汚染されたとしても、これまでと同じ値付を希望している。しかし、地元自治体や関係機関は、湖の水質が汚染されたため、魚の安全性が確保できず、これまでと同じ値付を希望することは難しいと見ている。

# 小川原湖 尽きない不安



漁再開へ準備する、浜田岡一さん  
20日、小川原湖(青森県東北町)

## 米軍機タンク投棄1カ月

### 訓練見上げ「漁再開しても…」

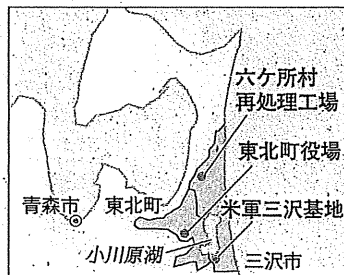
米軍三沢基地所屬のF16戦闘機が小川原(おがわら)湖(青森県東北町)に燃料タンクを投棄した事故から、20日で1カ月。部品回収はほぼ終了しましたが、漁獲による収入は途絶えたまま、漁師、加工・販売業者、流通や飲食店など地域経済に暗い影を落としています。

(青森県・藤原朱)

#### 青森・東北町

氷が解けた湖の様子を見た来た町民(78)は「ワカサギ釣りや旬のシジミを楽しみにする観光客が減り、町は損失。漁師さんへの補償だけでも早く進めてほしい」と語ります。

事故は2月20日、シジミ漁をしている漁船の近くにタンク2個が落下。小川原湖漁業



協同組合は、水質や魚介類の安全性が確認されるまで漁の全面禁止を決めました。町は米軍に抗議し、事故原因究明と飛行中止を求めましたが、米軍は漁協や町に謝罪せず、翌日から通常訓練を強行しました。

町議会は6日、国に事故原因の徹底究明・再発防止、速やかな原状復旧、減収・休業の補償を求める意見書を全会一致で採択し、怒りが広がりました。

日本共産党の市川俊光町議は「基地周辺で暮らす危険を感じた事故。補償含め、米軍

機の事故防止対策を求めていく」と話します。

「長く漁をしているけど、こんなに休んだことはない」。シラウオ漁50年余の浜田岡一さん(72)は20日、湖で網を掃除する作業をしていました。

小川原湖の漁師は約400人。シジミ、ワカサギ、シラウオ、ウナギの漁獲量は全国トップクラスです。

2カ月間の休業に追い込まれた浜田さん。例年、最低でも月200万円あった売り上げが、事故で奪われました。

「今月末に消費税を支払わなければならない。漁を再開できても、燃料代や人件費もある。心配は(水揚げに)値がどれだけ付くか」

米戦闘機の爆音が上空でどこどこ中、作業を続ける浜田さん。「不安は尽きない。『漁解禁まで頑張る』と周りの人も応援してくれている。早く漁がしたい」



### 主要施設別 駐留軍等労働者数

平成30年3月  
防衛省

平成30年1月末日現在  
(単位：人)

都 県 名	施 設 名	従 業 員 数			計
		基本労務契約	船員契約	諸機関労務協約	
青森県	三沢飛行場	1,155	-	241	1,396
東京都	横田飛行場	1,578	-	512	2,090
	キャンブ座間	1,352	-	251	1,603
神奈川県	厚木海軍飛行場	730	-	239	969
	横須賀海軍施設	4,514	-	721	5,235
山口県	岩国飛行場	1,222	-	279	1,501
長崎県	佐世保海軍施設	659	-	272	931
	嘉手納飛行場	1,836	-	842	2,678
沖縄県	キャンブ瑞慶覧	1,880	-	551	2,431
	牧港補給地区	748	-	264	1,012

(注) 労働者が在籍している施設は、本土35施設、沖縄19施設、合計54施設である。



**離職前職業訓練及び特別給付金に対する意識調査結果**

平成30年3月  
防衛省

- 1 調査目的  
駐留軍関係離職者等臨時措置法(昭和33年法律第158号)第10条第3項に基づき、在職中に実施している離職前職業訓練及び特別給付金について、駐留軍関係離職者の意見・要望を把握し、今後の離職対策の資とするため。

2 調査票の配布及び回収状況 (単位: 人)

区分	離職者数	配布	回収	未回収
25年度(22年度離職)	88	80	38 (47.5%)	42 (52.5%)
26年度(23年度離職)	103	94	43 (45.7%)	51 (54.3%)
27年度(24年度離職)	128	115	40 (34.8%)	75 (65.2%)
28年度(25年度離職)	100	93	44 (47.3%)	57 (52.7%)
29年度(26年度離職)	122	115	57 (49.6%)	58 (50.4%)

※ 配布数が減少しているのは、転居先が不明であったためである。

3 調査結果

(1) 項目1 「在職中に受講された離職前職業訓練は、再就職に役立ちましたか。」 (単位: 人)

区分	受講者	直接役に立った	間接的に役に立った	役に立たなかった
25年度	20	7	7	6
26年度	17	6	6	5
27年度	10	2	6	2
28年度	13	4	7	2
29年度	25	8	9	8

(受講していないが)

(単位: 人)

区分	未受講者数	役に立つと思う	役に立たないと思う	分からない	無回答
25年度	18	10	2	6	0
26年度	26	19	1	5	1
27年度	29	23	4	2	1
28年度	31	22	4	5	0
29年度	32	23	5	4	0

(2) 項目2 「再就職等には、どのような職業訓練が役立つと思いますか(複数回答)」 (単位: 人)

区分	役に立つと思われる訓練種目(上位)		
25年度	PC操作(17)	ヘルパー講習(14)	フォークリフト運転(5)
26年度	PC操作(19)	ヘルパー講習(12)	造園(8)
27年度	PC操作(20)	フォークリフト運転(11)	中型自動車運転(6) 外2
28年度	PC操作(14)	フォークリフト運転(7)	ボイラー講習(6)
29年度	PC操作(26)	フォークリフト運転(11)	危険物取扱(7) 外2

(3) 項目3 「離職前職業訓練へのご意見や感想がございましたら、お聞かせください」 (単位: 人)

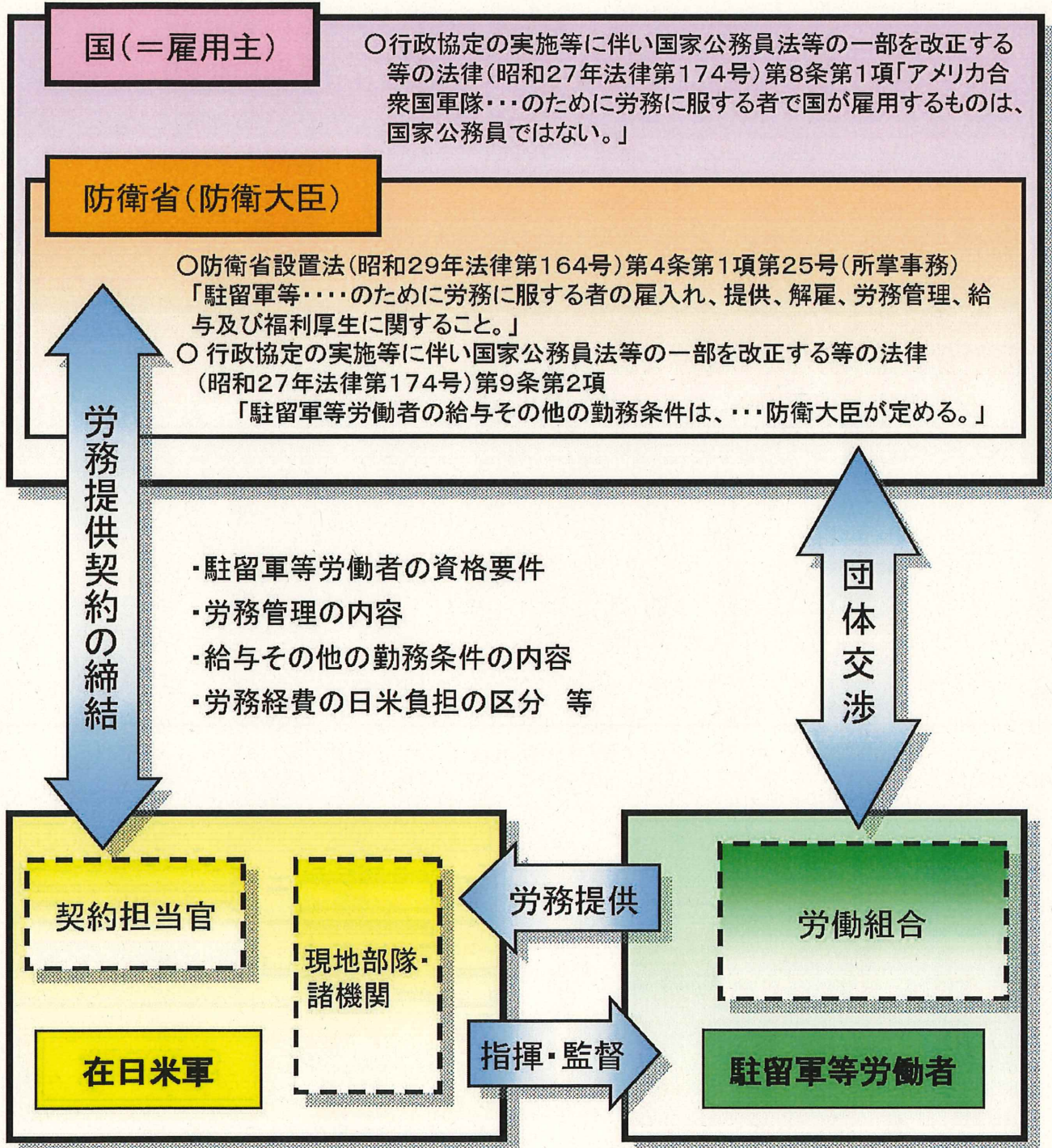
区分	回答数	肯定的意見	否定的意見	その他
25年度	17	1	2	14
26年度	22	4	1	17
27年度	15	4	2	9
28年度	22	5	4	13
29年度	22	7	1	14

(4) 項目4 「特別給付金へのご意見や感想がございましたら、お聞かせください」 (単位: 人)

区分	役に立った	役に立たなかった	その他	無回答
27年度	35	0	4	1
28年度	38	1	3	2
29年度	54	1	2	0



## 駐留軍等労働者の身分及び雇用について



出典：防衛省「駐留軍等労働者の労務管理に関する検討会 報告書」

## (2) 雇用の種類別（常用・臨時）従業員数

(単位：人)

年月	雇用種類	従業員数
H20.1	常用従業員	24,006
	臨時従業員	1,396
	合 計	25,402
H25.1	常用従業員	23,570
	臨時従業員	1,920
	合 計	25,490
H30.1	常用従業員	23,075
	臨時従業員	2,809
	合 計	25,884

※ 従業員数は各年とも1月末日現在

出典：防衛省